

東京裁判史観から脱却する！！

アメリカにトランプ大統領が就任し、日本を代表する企業トヨタがやり玉に挙がり、日本人や日本の経営者は、戦々恐々としています。この機会に、人間として、日本人として、どう対応すべきか、共に考え実践して参りましょう。

正義とは何か。愛国心とは何か。日本人とは何か。今一度、日本の歴史を、伝統を、精神を、あるいは、武士道・大和心を、深く見直して参りましょう。

大東亜戦争から、東京裁判を通じて、日本悪玉論を、当のアメリカがでっち上げ、WGIPというプロパガンダが今も巢食っています。戦後70年を経て、ようやく、何が正しいのか。誰が嘘を捏造し拡大したのか。その尻馬に乗ったマスコミは、誰なのか。一つ一つ丁寧に、事実を自分の目で、耳で、頭で確かめる必要があります。

「南京大虐殺」や「慰安婦問題」も、感情論ではなく、冷静に事実を積んで、白日の下に解明することが喫緊の課題です。本多勝一は、自分が観たことを書いたのか、朝日新聞は事実を、どう報道したのか。「クマラスワミ報告」とは、どういうものか。アイリス・チャンの「レイプ・オブ・ナンキン」は、どういう根拠に拠るのか。

そもそも、大東亜戦争は、日本が仕掛けたのではなく、何度も平和裏に解決しようと、アメリカに特使を差し向けながら、逆にアメリカに追い詰められ、やむを得ず開戦に踏み切ったのです。開戦の半年も前に、フライング・タイガーというアメリカの空軍が、援蒋ルートで、支那のバックから日本を攻めているのです。

日本は、A B C D（アメリカ・イギリス・支那・オランダ）網に、油や鉱物の輸入を止められ、喉首を締め上げられていたのです。日本は、侵略ではなく、自衛のため戦ったのです。戦後、マッカーサーは、そのことをアメリカ上院で証言しています。

心ある、アメリカ人弁護士の、ケント・ギルバート氏が、勇気ある発言をしてくれています。著書もたくさん出版されています。特に「東京裁判という茶番」がお勧めです。是非お読み下さい。

最近、海外からの旅行客や、長く日本に滞在する外国人が、こんなに優しい日本人が、戦争では、あんなに野蛮なことを、どうしてしたのだろう？と、不思議に思うそうですが、戦前も、戦後も、日本人は何も変わっていないのです。元来、日本人は、優しく、思いやりがあり、教養豊かなのです。戦後のアメリカの占領下における、洗脳教育で、戦前を“暗黒”にされただけなのです。

アメリカにトランプ大統領が誕生し、慌てふためくのではなく、逆に、日本を取り戻す、日本人が日本人に戻るチャンスにして参りましょう。

そして、経営者は、正々堂々と日本式経営、誇りある仕事をして参りましょう。



今月のポイント

日本人の誠実さ、真面目さ、熱心さが

世界をリードする秋です。